

新しいタイプの学校の検証及び充実について ～併設型中高一貫教育校～

1．検証の目的

本県では、連携型中高一貫教育の導入に続き、平成16年度に城ノ内高校に、平成18年度に川島高校に併設型中高一貫教育を導入した。以来、3年が経過し、中間点にさしかかったこの時期に、これまでの教育活動等について検証を行い、今後の取組の充実に生かしていくことを目的とする。

2．検証の概要

(1)視点

- [] 併設型中高一貫教育校が、新しい中等教育の選択肢として受け入れられているか。
- [] 併設型中高一貫教育校として、特色を生かした学校づくりが進められているか。

(2)方法

生徒・教職員を対象としたアンケートの結果、学校へのヒアリング、保護者の学校評価アンケート等をもとに検証する。

3．検証の結果

(1)総合的な評価

生徒・保護者からは、生徒一人ひとりの個性を大切にし、将来、社会の発展に貢献できる人材の育成を目指す併設型中高一貫教育に対し、高い評価を得る結果となっている。

両校では、6年間を通した指導計画やシラバスを作成するとともに、教育課程の特例を活用し、数学や英語を中心により多くの時間をかけて基礎学力の定着や発展的な学習を取り入れている。また、オンリーワンハイスクール・パワーアップ事業等を活用し、中学生が高校生とともに体験的な活動に取り組んだり、部活動でも中学生が高校生と一緒に活動できるように努めるなど、併設型中高一貫教育校としての特色を生かした取組が進められている。

こうした取組に対し、生徒は、高校入学者選抜がないことにゆとりを感じながら、落ち着いた環境の中で、基礎的・基本的なことを身につけることができる、授業も楽しく、意欲的に学習できると満足している。

しかしながら、志願者が減少傾向にあり、併設型中高一貫教育校の特色や良さについて、小学生やその保護者にわかりやすく効果的な広報活動を進める必要がある。また、「中学校との教員の意思疎通」を課題とする教員も多く、さらに一体感のある学校運営に努め、6年間を通した教育指導の改善や中学生と高校生の交流の推進などに取り組んでいく必要がある。

今回は、本県で初めて併設型中高一貫教育が導入され、中間点にさしかかった時期での検証であるが、明らかになった課題について、工夫・改善を進め、新しい中等教育のしくみとして、併設型中高一貫教育をより充実・発展させていく必要がある。

(2)各視点からの評価

〔視点 〕: 併設型中高一貫教育校が新しい中等教育の選択肢として受け入れられているか。

在校生は、6年間落ち着いて学習できる環境など併設型中高一貫教育に満足しており、保護者の評価も高く、教職員も生徒にとって良い制度と捉えている。

中学生対象のアンケート結果からは、生徒の多くが、「高校入試がないから」「6年間ゆとりをもって学習できると思うから」等、高校入学者選抜にとられないことや、6年間落ち着いた学習環境で学校生活を送れることを併設型中高一貫教育校に期待して入学してきており、85%を超える生徒が、現在の学校生活を振り返って「入学してよかった」と答えている。〔P9 資料2 問1(1),(2)〕

高校1年生を対象に行ったアンケートにおいても、学校の落ち着いた雰囲気や内進生と外進生が互いに刺激しあえる学習環境を理由に、78.3%（内進生83.3%、外進生73.4%）の生徒が「今の学校に入学してよかった」と回答しており、内進生・外進生ともに、現在の学校生活に満足している。また、外進生は、校風や学習指導、部活動といった高校そのものの魅力に期待して、入学を志願していることも明らかになった。〔P13 資料2 問6,問7〕

保護者からの評価も高く、城ノ内中学校・川島中学校の平成18年度学校評価アンケートでは、中高一貫教育に関する問いに対し、どの項目においても80%を超える肯定的評価を得ている。〔P17 資料3〕

教職員も、併設型中高一貫教育は生徒にとって良い制度だと71.9%が答えており、生徒・保護者の満足感を反映する結果となった。〔P16 資料2 問12〕

小学校卒業という早い段階での進路選択を配慮し、併設型中高一貫教育校の特色ある取組について充分理解して志願できるよう、また、より多くの志願者を募集できるように、今後、さらにわかりやすく効果的な広報活動の工夫が必要である。

城ノ内・川島両校では、県下全域の小学6年生や保護者を対象に、毎年10月にそれぞれ入学者募集説明会を行い、併設型中高一貫教育のしくみや両校の特色ある取組について説明を行っている。

生徒のアンケート結果では、入学者募集説明会について、57.2%の生徒が説明を「分かった」「だいたい分かった」とするのに対して、「あまり分からなかった」「分からなかった」とする生徒は9.0%と、肯定的な回答が否定的な回答を大きく上回り、説明会に参加した生徒には城ノ内・川島両校の取組について一定の理解が得られていると考えられる。その一方で、30%以上の生徒が、入学者募集説明会で「説明を受けていない」、または説明を「よく覚えていない」と回答し、併設中学校で直接説明を受けることなく、入学している生徒がいることも明らかになった。〔P10 資料2 問1(4)〕

また、志願状況では、開校2年目の川島中学校が平成20年度生徒募集で定員を割り込み、ほぼ5倍程度の高い志願倍率を保っている城ノ内中学校も、平成20年度生徒募集での志願者数はこれまでで最も少なかった。〔P7 資料1 1〕

小学校卒業という早い段階での進路選択を配慮し、併設型中高一貫教育校の特色ある取組について充分理解して志願できるよう、また、より多くの志願者を募集できるように、今後、さらにわかりやすく効果的な広報活動の工夫が求められている。

〔視点 〕: 併設型中高一貫教育校として、特色を生かした学校づくりが進められているか。

生徒は、高校入学者選抜がないことにゆとりを感じているとともに、併設型中高一貫教育校での学習活動にも満足している。

高校1年生のアンケート結果からは、内進生のうち「高校入試がないことはよかった」と高校入試がないことを肯定的に捉えている生徒が69.3%を占めた。その理由からは、「中学校の雰囲気ギリギリせず、ゆとりを持って高校生活の準備をすることができた」「ゆとりを持って将来の大学や就職のことを考えることができた」「入試のための学習ではなくいろいろなことを学ぶことができた」など、併設型中高一貫教育の特色の一つである、高校入学者選抜がないことをゆとりとして実感している様子が見えてくる。〔P14 資料2 問8〕

中学生のアンケート結果でも、併設型中高一貫教育校として高校入学者選抜を受けることなく進学できることの「よい点」を尋ねたところ、「6年間を通して、ゆとりをもって学習に取り組める」「高校に行けるという安心感をもって、学校生活が送れる」「中学3年生になっても部活動を継続できる」など、高校を受検する心理的プレッシャーや受検のための勉強に追われることなく時間的ゆとりを持てることをメリットとして捉える意見がみられた。〔P12 資料2 問3(1)〕

また、現在の学校生活について、70%以上の中学生は「ゆとりをもって、じっくりと学習に取り組むことができる」と感じており、余裕をもって着実に学習に取り組んでいる様子が見えてくる。〔P11 資料2 問2(3)〕

城ノ内・川島両校では、こうしたゆとりを生かして各種検定試験を積極的に取り入れ、生徒一人ひとりが目標を持って学習に取り組めるよう努めている。

さらに、「基礎的・基本的内容をしっかり身につけることができる」「授業が楽しく、意欲的に学習に取り組むことができる」と感じている生徒も90%近くを占め、中学校での学習活動に満足していることがわかる。〔P10 資料2 問2(1),(2)〕

学校では、自然体験や社会体験などの体験的な活動や将来の進路についてじっくり考える機会が積極的に設けられており、生徒はその取組に満足している。

現在の学校の取組として、「自然体験や社会体験(職場体験等)などの体験的な学習を行っている」とする教職員が87.7%を占め、「自然体験や社会体験(職場体験等)などの体験的な学習ができる」と感じている生徒も70%を超える。特に、中学1年生では、中学3年生に比べ30%以上も高い、84.2%の生徒が「そう思う」「まあそう思う」と答え、基礎期を中心に体験的な活動を多く取り入れ、生徒の発達段階に応じた学習活動が展開されている。〔P11 資料2 問2(5), P15 資料2 問9(4)〕

また、「生徒に自分の将来の進路・職業についてじっくりと考えさせている」とする教職員は71.9%を占め、「自分の将来の進路・職業についてじっくりと考えることができる」と実感している生徒も73.4%と比較的高い割合を示す。特に、自分の将来に対する意識の高まってくる中学3年生は、86.8%の生徒が「そう思う」「まあそう思う」と答え、中学1年生より20%以上も高い割合であった。〔P11 資料2 問2(4), P15 資料2 問9(3)〕

併設中学校では、生徒の発達段階に応じて、自然体験・社会体験などの体験的な学習や将来についてじっくり考える機会を積極的に取り入れた学習活動が展開され、生徒も満足していると言える。

教職員は、6年間を通じた計画的・継続的な教育指導を行えるしくみを、今後さらに工夫・充実させる必要があると感じている。

6年間を通じた計画的・継続的な教育指導を進めるため、城ノ内中学校・高校では、すでに6年間を通じたシラバスを作成し、計画的に学習を進めている。特に、中学校では、数学的な考え方や会話を重視した英語力の習得を目指して学習を進めることとしており、教育課程の特例を活用し、数学と英語で週あたりの授業時数をそれぞれ1～2時間程度多く確保することにより、基礎的な学力の確かな定着を図るとともに発展的な学力の育成にも努めている。

川島中学校でも、特例を活用し、週あたりの授業時数を標準より2時間多い週30時間とし、増えた授業時数を英語と数学に充てている。チームティーチングや少人数指導により発展的な学習に取り組むとともに、学習サポート体制を充実し基礎学力の定着にも努めている。高校では、単位制を生かし、進路希望や習熟度に応じて学習が行えるよう、中高一貫教育推進委員会を中心に検討している。〔P7 資料1 2(1)〕

教職員のアンケート結果からは、現在の学校の取組について「6年間を通じた計画的・継続的な教育指導を計画している」と肯定的に捉える教職員が64.3%いるが、現在の学校にとって重要と思われる取組として「6年間を通じた計画的・継続的な教育指導を計画する」を挙げる教職員は多い。〔P15 資料2 問9(1), P16 資料2 問10〕

生徒が充実・発展期にさしかかるようになり、教職員が、今後さらに6年間を通じた教育指導を充実する必要があると感じていると言える。

学校では、学校行事や部活動を通して中学生と高校生の交流の機会を設けているが、中学生は、高校生や高校教職員との交流が充分でないと感じており、中高の生徒や教職員の交流をさらに進める必要がある。

城ノ内・川島両校とも、学校行事や部活動を中心に中学生と高校生が一緒になって活動している。学校行事では、全校集会や卒業式など儀式的行事のほか、文化祭や体育祭も大切な交流の場となっている。さらに、オンリーワンハイスクール・パワーアップ事業での様々な体験的活動も、高校生のほか中学生にも参加を呼びかけ、互いの交流を図っている。部活動においても、両校とも10部程度の部活動が中高合同で活動しており、中学生が市予選を勝ち抜き、県総体へ出場を決める運動部もある。また、中学校と高校の教員が交流して授業を行っており、生徒にとっても異なった校種の教員と触れ合ういい機会となっている。〔P7 資料1 2(1), P8 資料1 2(3)〕

アンケート結果では、70.2%の教職員が「中学生と高校生の交流が可能となるよう、活動の場や機会を提供している」と回答しており、教職員は、学校生活の中に年齢を超えた活動を取り入れ、中学生と高校生の交流に努めている。〔P15 資料2 問9(5)〕

一方、「高校の先生からも話を聞いたり、教えてもらうことができる」と感じている中学1年生が51.8%であるのに対し、3年生では69.3%と高い割合を示し、高校教職員との交流は、充実期に向けてスムーズな移行が行われていると考えられる。〔P11 資料2 問2(7)〕

しかし、「高校生とたくさん交流できる」と感じている中学1年生が76.9%であるのに比べ、3年生では43.0%と大きく下回り、年齢的に高校生と最も近い充実期にもかかわらず、中学生と高校生の交流は充分には進んでいない。〔P11 資料2 問2(6)〕

さらに、「あなたの学校の中高一貫教育校としていいところはどのような点ですか」という問いに、「部活動で高校生と交流できる」「高校生や高校の先生からアドバイスをもらえる」など、他の中学校にはない幅広い異年齢集団での部活動や高校生や高校の教職員と直接関わりを持てることを多く挙げている。反面、「あなたの学校の中高一貫教育として改善してほしい点はどのような点ですか」の問いに、「もっと高校生と一緒に活動時間をふやしてほしい」「高校のことを早く知っておきたい」と高校生や高校の教職員と一層交流を望む声も多く、今後さらに進める必要がある。〔P12 資料2 問4, 問5〕

教職員は、中学校と高校の教職員がこれまで以上に意思疎通を図り、連携を深める必要があると感じており、より一体感のある教職員集団を組織することが求められている。

教職員の組織としては、城ノ内・川島両校ともに、中高一体となって学校運営に当たれるよう校務を分掌している。また、毎月1回、教職員全員による職員会議または中高それぞれの教職員の代表による学校運営委員会を実施し、中高の教職員が意思疎通を図れるよう努めている。〔P8 資料1 2(2)〕

しかしながら、現在の学校の取組について、「中学校の教員と高校の教員の意思疎通を図っている」と感じている教職員は40.4%と、中高の教職員の意思疎通がまだまだ十分に図れていない状況がうかがわれる。また、「中高一貫教育校に勤務するあなたにとって重要であると思われること」として、半数以上の教職員が「中学校と高校の教員の意思疎通」を挙げ、中高一貫教育校として、今後その特色を生かすためには中高の教職員の緊密な連携が不可欠だと感じていることも明らかになった。

〔P15 資料2 問9(6), P16 資料2 問10〕

「中高一貫教育をさらに充実・発展させるためにどうすればいいか」という問いに、「中学校・高校のどちらかにスタイルを合わせるのではなく、中高一貫教育ならではの教育システムを考えるため、教職員同士がもっと意識して相互理解できる場と時間を設ける必要がある」という回答があるように、中高の教職員が意思疎通を図り、教職員集団として、より一体感のある組織となるような工夫が求められる。

〔P16 資料2 問11〕

4. 各校の充実策

これまでの検証結果を踏まえ、併設型中高一貫教育が、生徒にとってさらに魅力ある進路となるように、各校の充実策についてまとめた。

【城ノ内中学校・高校】

(1) 広報活動の充実と地域に開かれた学校づくりの促進

学校ホームページの充実やマス・メディアを活用することにより、積極的な情報発信に努める。

学校公開の日や文化祭等について、在校生の出身小学校へ案内し、積極的に公開する。

- (2) 指導計画の改善とよくわかる授業の徹底
中学校・高校を通して、学習進度や進路希望等に応じたカリキュラムの見直しを図る。
授業研究会の活性化や中高の教職員による教材開発、授業に対する評価の改善・工夫により、授業改善を進める。
- (3) キャリア教育の充実と学習意欲を持たせるための中間目標の設定
「総合的な学習の時間」等を工夫し、キャリア教育の充実を図る。
高校教員や高校生による進路講話を計画的に実施し、進路選択に向けた意識づけを図る。
中学校段階の学力診断として、高校入学予定者に一斉学力テストを実施する。
- (4) 中学生と高校生の交流の活性化と中高の教職員の連携の充実
中学生・高校生合同で学校行事(文化祭・球技大会等)を企画・運営し、生徒の連帯意識を高める。
運営委員会、学力向上検討委員会等の職員組織の活性化や、中高教職員の意見交換の場を定期的に設けることにより、学校運営に対する共通理解を徹底する。

【川島中学校・高校】

- (1) 広報活動の充実と地域に開かれた学校づくりの促進
学校ホームページ等の充実により、積極的な情報発信に努める。
PTA広報誌の内容を充実させ、在校生の出身小学校等へ配付し、学校紹介を積極的に行う。
中高一貫教育見学会を小学校の児童・保護者・教職員に積極的に公開し、地域に開かれた学校づくりを進める。
- (2) 指導計画の検討・作成とよくわかる授業の徹底
6年間を見通した指導計画を検討・作成し、習熟度等に対応した学習指導の工夫に努める。
中高合同授業研究会を定期的で開催し、指導方法等の連携を深め、授業改善に努める。
- (3) キャリア教育の推進やきめ細かな進路指導の充実
「総合的な学習の時間」等を工夫し、キャリア教育の充実を図る。
生徒・保護者が参加する中高一貫教育懇談会・進路説明会等を計画的に実施することにより、学校・家庭が一体となったきめ細かな進路指導の充実を図る。
- (4) 中学生と高校生の交流の活性化と中高教職員の連携の充実
中学校の生徒会組織を立ち上げ、高校の生徒会と連携した活動を展開する。
中高一貫となった校務分掌組織の活性化や中高教職員の意見交換の機会を定期的に設けることにより、学校運営に対する共通理解を推進する。

資料 1

1. 入学者選抜の志願状況

		H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度
城ノ内中学校	志願者数	1096	708	585	621	554
	志願倍率	9.00	5.81	4.83	5.13	4.62
川島中学校	志願者数			82	98	79
	志願倍率			1.03	1.19	0.99

2. 中高一貫教育を生かした学校運営の状況

(1) 教育課程等に関する状況

教育課程の特例の実施(先取りや入れ替え・教科・時数・教材など)

城ノ内中：数学では、週あたりの授業時数を学校選択を含め、1年生で4時間、2年生で4.5時間、3年生で5時間行い、標準の授業時間数(各学年3時間)より多く取って、中学校段階に必要とされる学習内容をきちんと習得させることに重点を置きつつ、数学的な考え方を育てる工夫をしている。また、英語では、学校選択として、「英会話」の授業を1年生で1時間、2年生で1.5時間、3年生で2時間実施し、英語によるコミュニケーション能力を高める工夫が行われている。

川島中：選択教科として、「数学演習」、「英語演習」、「国語探究」、「社会探究」、「理科探究」を学校選択として設定している。授業時間数には、週0.4～0.5時間を充て、中学校段階に必要とされる学習内容をきちんと習得させることに重点を置きつつ、特に数学と英語では学習内容の先取りを行っている。

中高合同で行う主な学校行事

両校とも、全校集会、対面式、文化祭、体育祭、オンリーワンハイスクール・パワーアップ事業、総合体育大会の壮行会、予餞会、総合学習の発表会などの学校行事を中高合同で実施している。

(2)職員組織に関する状況

中高の校務分掌の組織体制

両校とも，中学校と高校の教職員が一緒に職員組織を構成し，一体となった学校運営に努めている。

中高合同の職員会議の実施状況

城ノ内中：月1回，中高教職員による運営委員会を実施。

川島中：月1回，中高教職員による職員会議を実施し，校務運営委員会は毎週開催している。

(3)部活動に関する運営状況

部活動の入部状況(部名，学年別入部者数，指導者数)

城ノ内中学校

部活動名	入部者数		
	1年	2年	3年
弓道	15	13	12
剣道	4	7	3
サッカー	7	9	1
ソフトボール	6	7	8
硬式テニス	15	10	19
バスケットボール	13	11	8
陸上	5	7	9
吹奏楽	20	16	18
英会話	8	6	4
書道	0	2	1
美術	4	4	3

その他高校の部活動である囲碁・将棋，演劇，科学部などにも参加できる。

川島中学校

部活動名	入部者数	
	1年	2年
軟式野球	9	2
サッカー	4	2
バスケットボール	2	5
バレーボール	7	6
剣道	1	5
ソフトテニス	11	13
弓道	1	1
卓球	6	12
新体操	1	2
音楽	11	10
人権研究	1	5

その他高校の部活動であるソフトボール，水泳，書道，文芸，囲碁，ESSにも参加ができる。
人権研究6名は，他の部活動と兼ねて入部。

部活動運営上で工夫している点(時間，場所，中学3年生の活動期間など)

中学生，高校生とも同時展開で部活動を実施。ただし，終了時間は，中学校のみ夏期午後6時30分，冬期午後6時。

中高同時展開のため，体育館を中心に練習場所・練習方法を工夫している。

併設型中高一貫教育アンケート結果

調査対象及び調査時期

	中学1年生	中学3年生	高校1年生	教職員
城ノ内中学校・高校	119	114	234	49
川島中学校・高校	72	-	-	8
調査時期	H18.10	H18.12	H19.9	H18.10

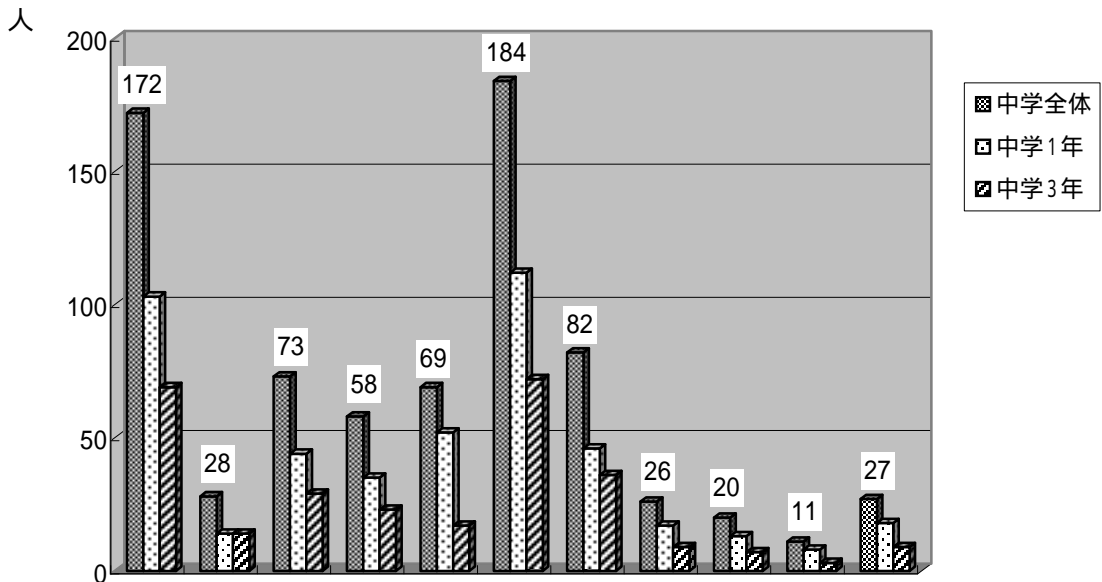
< 中学生対象 >

問1 この学校への入学についてお尋ねします。

(1) あなたがこの学校を選んだ理由のうち、よくあてはまるものを3つ以内選んでください。

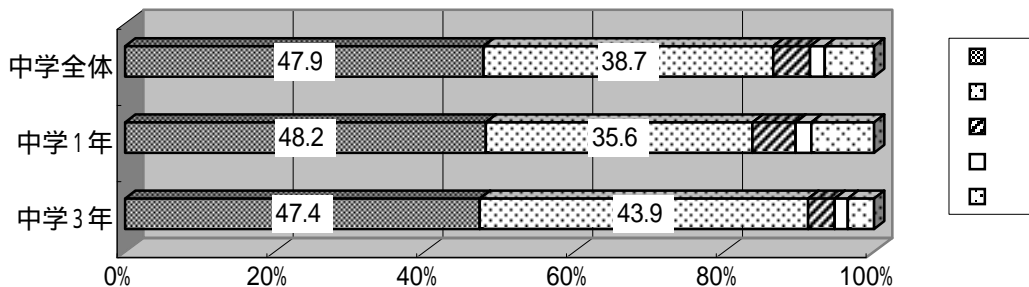
6年間ゆとりをもって学習できると思うから
 自分のやりたい勉強ができると思うから
 将来の進学・就職に有利だから
 保護者や先生がすすめたから
 通学に便利だから
 その他

自分の学力にあっているから
 自分のやりたい部活動ができると思うから
 高校入試がないから
 友人が希望していたから
 特に理由はない



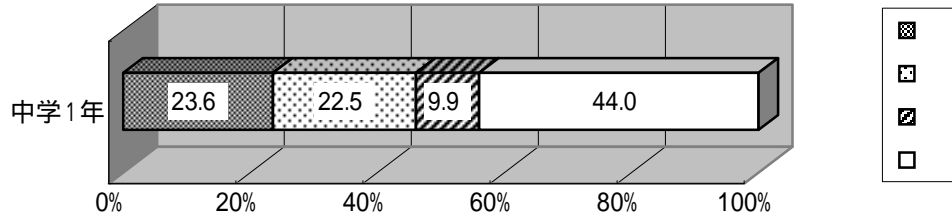
(2) あなたは今の学校に入学してよかったと思いますか。次のうちからあてはまるものを1つだけ選んでください。

そう思う まあそう思う あまりそう思わない そう思わない わからない



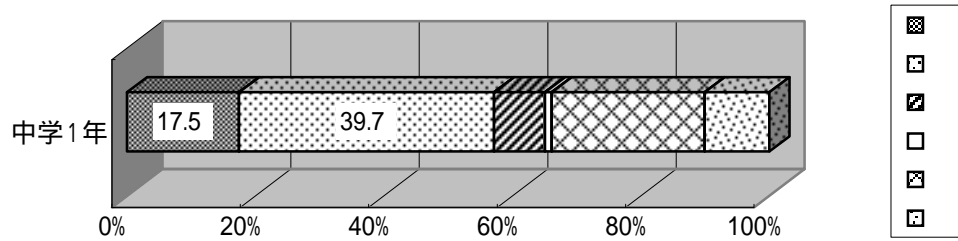
(3) 今の学校への受検をどの時期に決めましたか。次のうちからあてはまるものを1つだけ選んでください。(中学1年生のみ)

- 小学校6年生になる以前
- 小学校6年生の4月から夏休み前
- 小学校6年生の夏休み
- 小学校6年生の夏休み以降



(4) 中学校の先生から説明会などで今の学校について説明を受けたと思いますが、分かりやすかったですか。次のうちからあてはまるものを1つだけ選んでください。(中学1年生のみ)

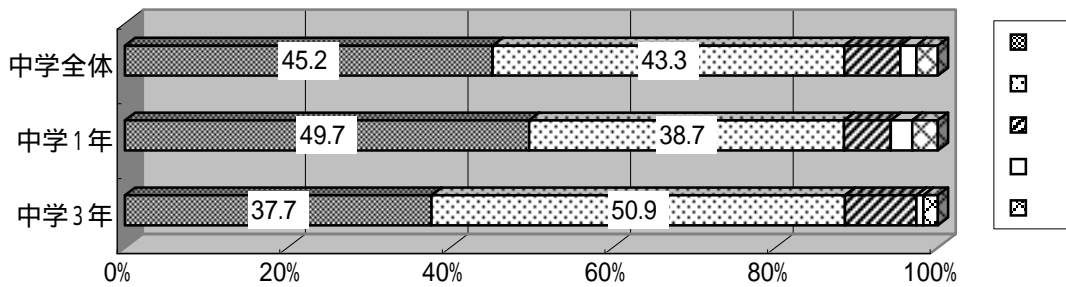
- 分かった
- だいたい分かった
- あまり分からなかった
- 分からなかった
- よく覚えていない
- 説明を受けていない



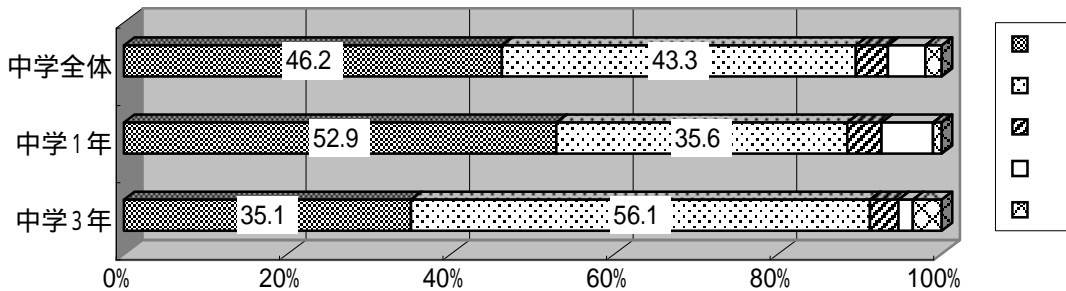
問2 あなたの学校についてお尋ねします。あなたは次の事項についてそれぞれどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

- そう思う
- まあそう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない
- わからない

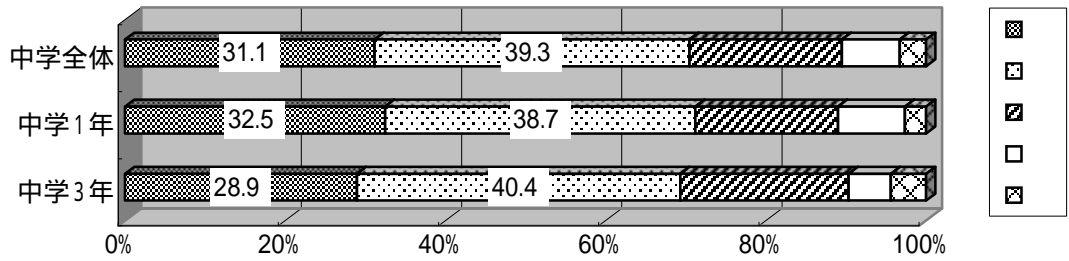
(1) 基礎的・基本的な内容をしっかり身に付けることができる。



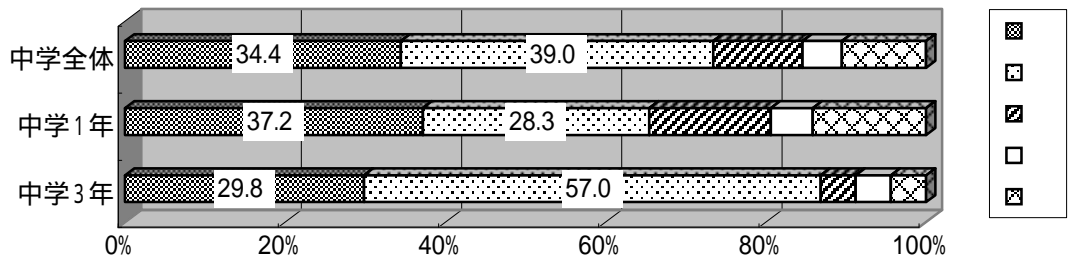
(2) 授業が楽しく、意欲的に学習に取り組むことができる。



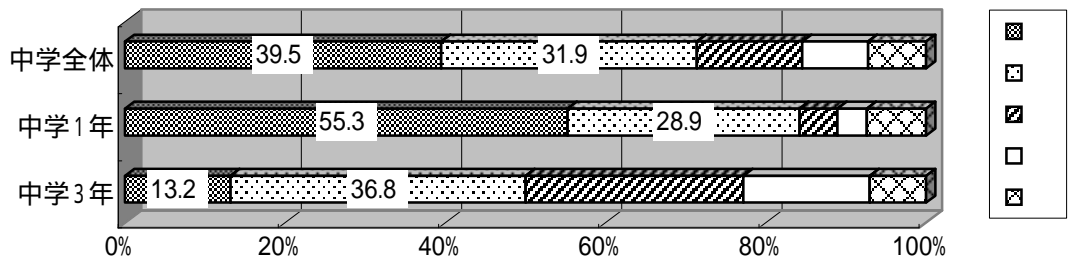
(3) ゆとりをもって、じっくりと学習に取り組むことができる。



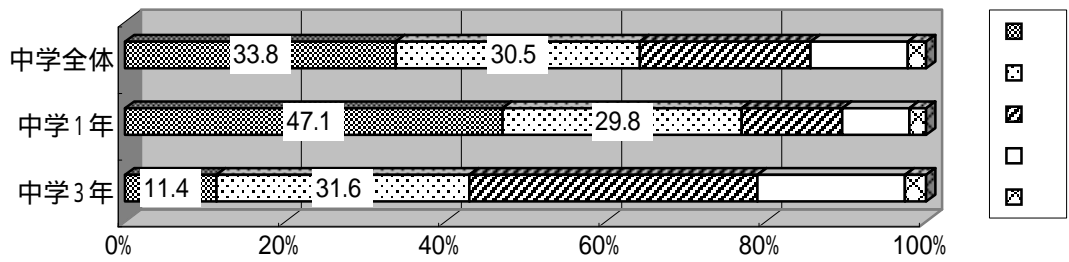
(4) 自分の将来の進路・職業についてじっくりと考えることができる。



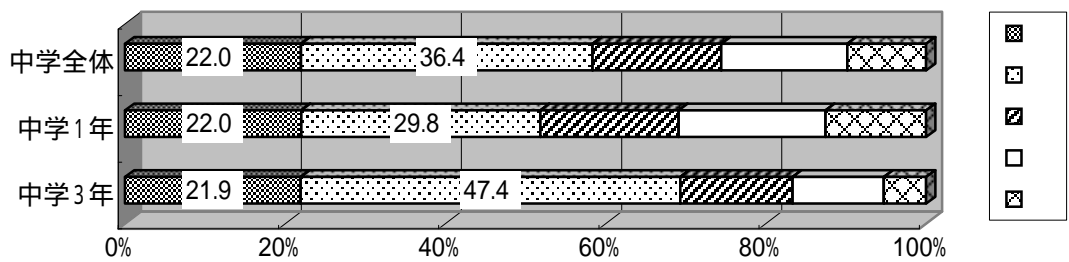
(5) 自然体験や社会体験(職場体験等)などの体験的な学習をすることができる。



(6) 高校生とたくさん交流できる。



(7) 高校の先生からも話を聞いたり、教えてもらうことができる。



問3 併設する高等学校へ進学する場合は、高校入試がありません。このことについてお尋ねします。

(1) 高校入試がないことのよい点はどのような点だと思いますか。

<主な意見>

- ・6年間を見通して、ゆとりをもって学習に取り組める
- ・高校に行けるという安心感をもって、学校生活が送れる
- ・ゆとりをもって、受験のプレッシャーを感じず、勉強できる
- ・中学3年になっても、高校入試のために部活をやめることが無い

(2) 高校入試がないことのおくない点はどのような点だと思いますか。

<主な意見>

- ・具体的な目標が持てなかったり、緊張感が無くなり、あまり勉強をしなくなる
- ・一生の中で一回しかない大切な経験ができない
- ・高校へ行く実力が無いまま上に行ってしまう
- ・受験がないから気持ちが引き締まりにくい
- ・高校生になるという実感がわからずに、他の受験生と学力の差がついてしまいそう

問4 あなたの学校の中高一貫教育としていい点はどのような点ですか。

<主な意見>

- ・学校行事や部活動などを通して、高校生と交流できる
- ・高校の先生や先輩にいろいろ教えてもらえる
- ・高校入試がないことで6年間ゆとりをもって勉強できる
- ・中学校から高校まで友達と離れなくてすむ
- ・高校でも知っている先生がいる

問5 あなたの学校の中高一貫教育として改善してほしい点はどのような点ですか。

<主な意見>

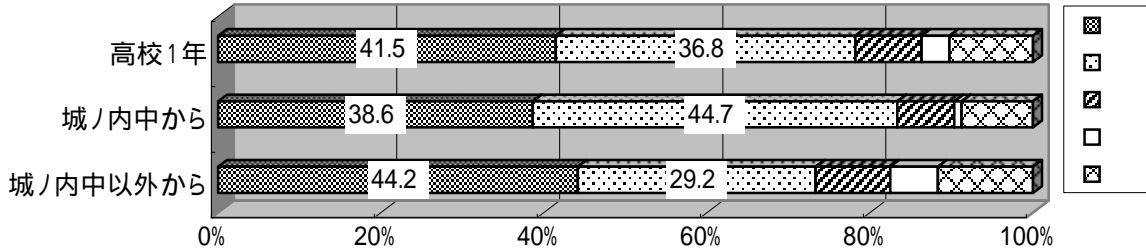
- ・もっと高校生と一緒に活動時間をふやしてほしい(高校生との交流を増やしてほしい)
- ・高校のことを早く知っておきたい(高校の授業を見学したい)
- ・中学生と高校生の生活ルールが違う

< 高校1年生対象 >

城ノ内中学校から入学した生徒114人，城ノ内中学校以外の中学校から入学した生徒120人，計234人による集計。

問6 あなたは、今の学校に入学してよかったと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。また、その理由はどうしてですか。

そう思う まあそう思う あまりそう思わない そう思わない わからない



< 「そう思う」「まあそう思う」と答えた主な理由 >

城ノ内中学校から入学した生徒

- ・高校入学後の環境の変化が少ないので過ごしやすい
- ・学校やクラスが落ち着いていて雰囲気がいい
- ・他の学校にない設備やイベントがある
- ・高校からの友達と切磋琢磨できている

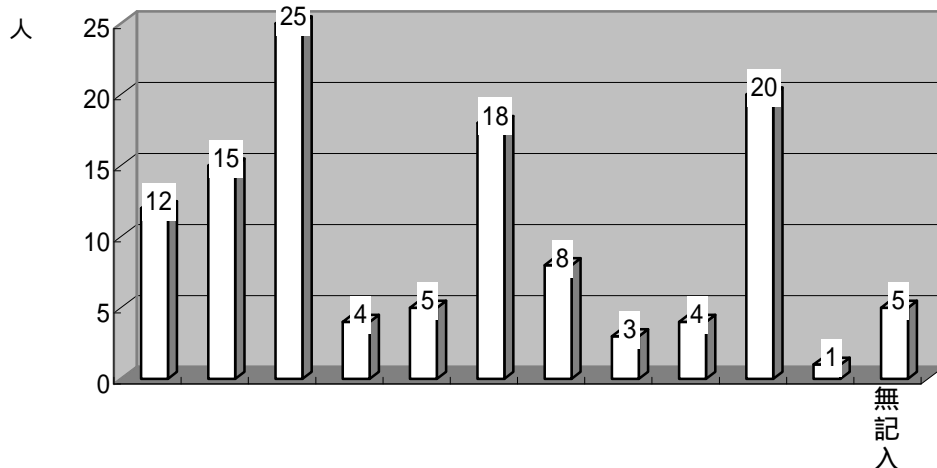
城ノ内中学校以外の中学校から入学した生徒

- ・雰囲気が落ち着いていて学習環境がいい
- ・いろいろな地域から通っている人がいるので、知らなかったことを知ることができた
- ・先輩や後輩と幅広い付き合いができる
- ・城ノ内中学校から入学した人たちに刺激を受けることが多い

問7 城ノ内中学校以外の中学校から入学した方にお尋ねします。

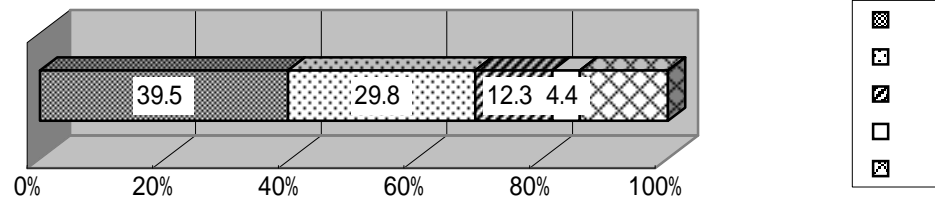
あなたがこの学校を選んだ理由のうち、よくあてはまるものを1つだけ選んでください。

- 校風が自分にあっていると思ったから
- 自分にあった学習指導で、学力を伸ばせると思ったから
- 自分のやりたい部活動ができると思ったから
- 体験的な学習などの特色ある教育を受けられると思ったから
- 城ノ内中学校で学んだ人たちと一緒に学べるから
- 進学・就職に有利だと思ったから
- 保護者や先生がすすめたから
- 友人が希望していたから
- 通学に便利だから
- 特に理由はない
- その他



問8 城ノ内中学校から入学した方にお尋ねします。
 高校入試がないことは、よかったですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。
 また、その理由を教えてください。

そう思う まあそう思う あまりそう思わない そう思わない わからない



（「そう思う・まあそう思う」と答えた主な理由）

- ・ 中学校の雰囲気はピリピリせず、ゆとりを持って高校生活の準備をすることができたから。
- ・ ゆとりある充実した学校生活を送れた。
- ・ 入試対策をする必要が無く、深く学習できた。
- ・ ゆとりを持って将来の大学や就職ことを考えることができたから。
- ・ 入試のための学習ではなくいろいろなことを学ぶことができた。
- ・ 部活動が長く続けられた。
- ・ 自分の弱点を時間をかけてゆっくり見直すことができたから。

（「そう思わない・あまりそう思わない」と答えた主な理由）

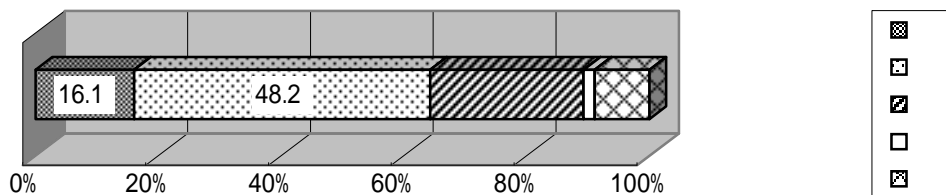
- ・ 中学校の復習より高校の予習に力が入り、中学校の内容が身に付いていない気がするから。
- ・ 他の中学校の入試対策をしていた人と、していない自分の学力に差ができるようで不安。
- ・ 少しプレッシャーがある方が学力は伸びるように感じるから。

<教職員対象>

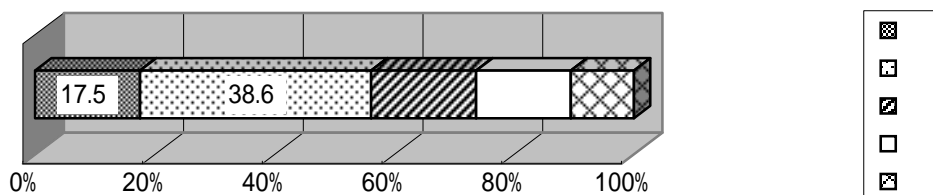
問9 あなたの学校の取組についてお尋ねします。あなたは、次の事項についてそれぞれどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

そう思う まあそう思う あまりそう思わない そう思わない わからない

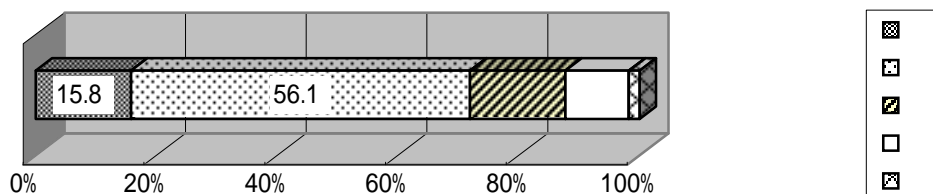
(1) 6年間を通した計画的・継続的な教育指導を計画している。



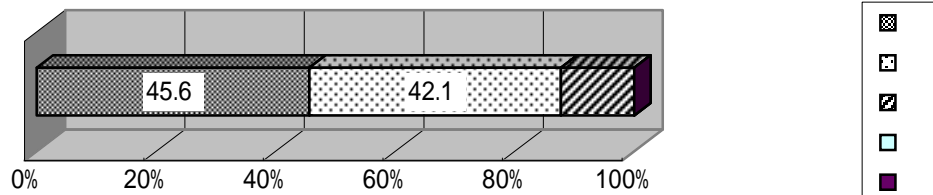
(2) 高校入試がないため、ゆとりをもってじっくりと学習に取り組ませている。



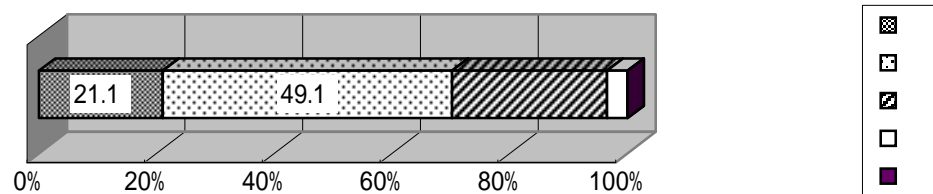
(3) 生徒に自分の将来の進路・職業についてじっくりと考えさせている。



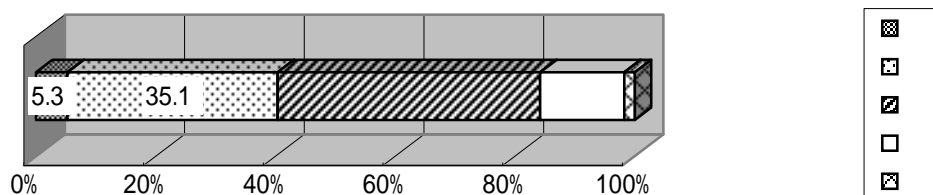
(4) 自然体験や社会体験（職場体験等）などの体験的な学習を行っている。



(5) 中学生と高校生の交流が可能となるよう、活動の場や機会を提供している。

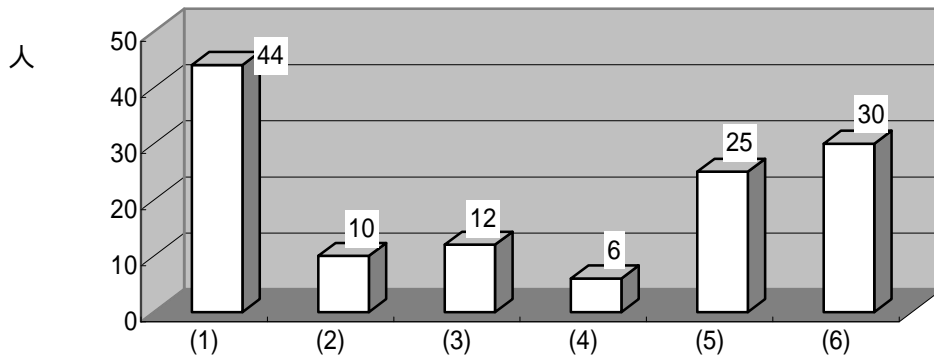


(6) 中学校の教員と高等学校の教員の意思疎通を図っている。



問10 問9の(1)～(6)のうち、中高一貫教育校に勤務しているあなたにとって重要であると思われるものを3つ以内選んでください。

- (1) 6年間を通した計画的・継続的な教育指導を計画している。
- (2) 高校入試がないため、ゆとりをもってじっくりと学習に取り組ませている。
- (3) 生徒に自分の将来の進路・職業についてじっくりと考えさせている。
- (4) 自然体験や社会体験(職場体験等)などの体験的な学習を行っている。
- (5) 中学生と高校生の交流が可能となるよう、活動の場や機会を提供している。
- (6) 中学校の教員と高等学校の教員の意思疎通を図っている。



問11 あなたの勤務する中高一貫校をさらに充実発展させるためにはどうすればいいですか。

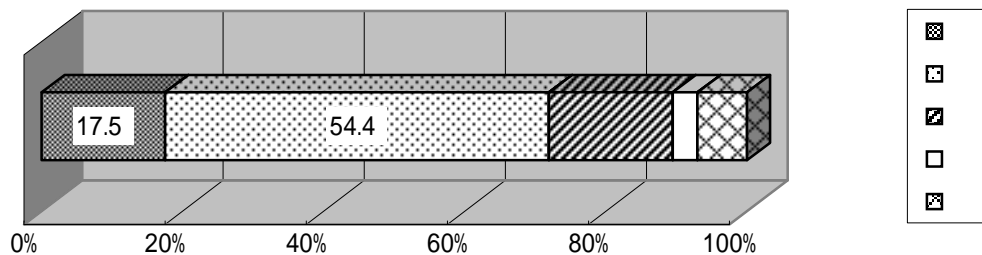
< 主な意見 >

- ・ 中学校・高校のどちらかにスタイルを合わせるのではなく、中高一貫ならではの教育システムを考えるため、もっと時間をとって相互理解する場と時間を設ける。
- ・ 教科や単元の目的や学習内容、中学校と高校の教科の関連についてよく把握できるよう教科会の充実を図る。
- ・ 各校務分掌や学年団、教科担当等、全ての教員、全ての部署が連携して取り組める体制づくりを進める必要。

問12 中高一貫教育校の制度についてお尋ねします。

併設型中高一貫教育校は、生徒にとって良い制度だと思いますか。次のうち、あてはまるものを1つだけ選んでください。

そう思う まあそう思う あまりそう思わない そう思わない わからない

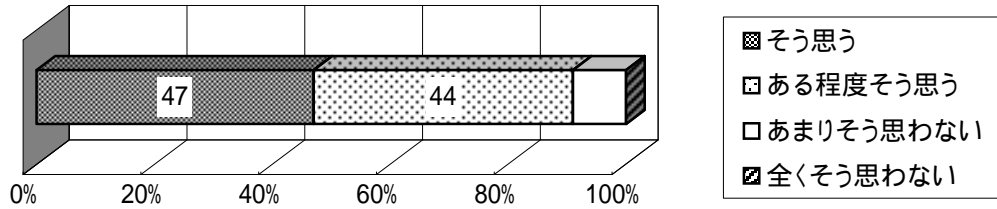


資料3

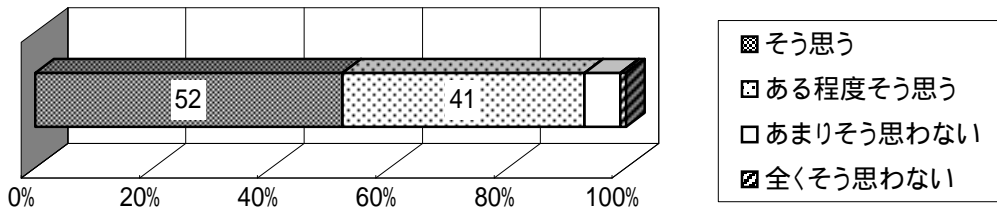
中高一貫教育についての保護者の評価 (平成18年度学校評価アンケートより)

< A 校 >

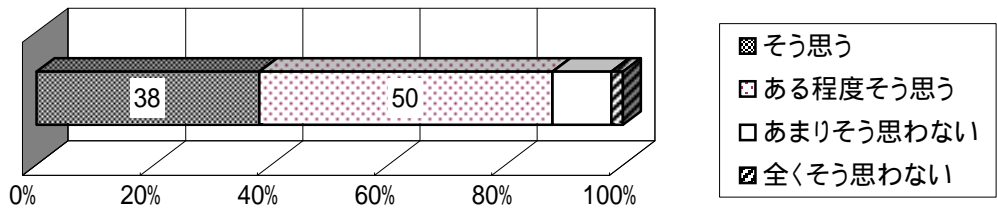
中高一貫教育は、中高相互の理解を深める上で有効である



中高一貫教育は、高校入試に影響されることなく、部活動や学校行事など、豊かな活動ができる

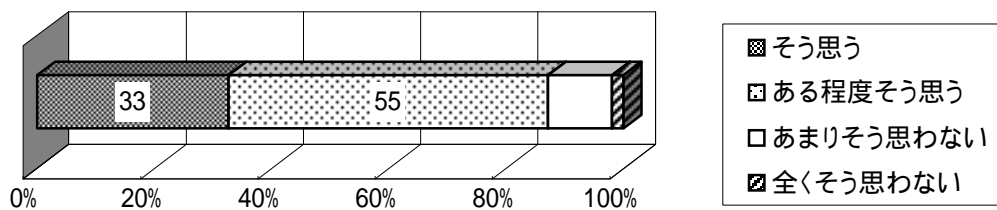


中高一貫教育は、ゆとりの中でしっかりした学力がつけられる



< B 校 >

中高一貫教育では、確かな学力を身につけられる



中高一貫教育は、自分の進路を決める上で役立つ

